

氏 名：湯浅 晶子
学位の種類：博士（看護学）
学位記番号：甲第 225 号
学位授与年月日：2022 年 3 月 10 日
学位授与の要件：学位規則第 4 条第 1 項該当
論文審査委員：主査 奥 裕美（聖路加国際大学教授）
副査 麻原 きよみ（聖路加国際大学教授）
副査 木下 康仁（聖路加国際大学特命教授）
副査 吉川 徹（労働安全衛生総合研究所総括研究員）

論文題目：歌舞伎俳優の「健康」の言説
—産業安全保健との接点を求めて—

博士論文審査結果

本研究は、歌舞伎俳優の「健康」言説、および彼らが産業安全保健を受け入れやすくなる可能性のある考え方を明らかにしたうえで、歌舞伎ならびに舞台芸術の分野での産業安全保健への提言を示すことを目的とした、事例研究ならびにエスノグラフィックな記述研究である。文献、映像データを資料に用い、批判的言説分析、Archer の形態生成論アプローチにおける分析的二元論、批判的实在論の推論形式であるアブダクション、リトロダクションを用いて記述分析を行った。

結果、歌舞伎役者には昭和初期以降、一般的な労働時間管理の概念からは逸脱した興行形態による過労があり、その問題を指摘し改革を目指す動きをする歌舞伎役者はあったものの、実現はしていないことが分かった。歌舞伎俳優の「健康」言説は、歌舞伎俳優自身が歌舞伎という社会構造の中に取り込まれて存在しており、先人たちの功績と芸への敬意が含まれていなければならぬこと、そして「健康」言説の再生産には名跡や家、座組、興行形態、人気の変化や従属的自営であることで社会保障の枠組みから漏れることが作用していることも明らかになった。舞台に上がり、観客に喜んでもらうことを生涯の役割とする歌舞伎俳優自身はもちろん興行主、観客、評論家、メディア、国がそれぞれの立場で健康と Well-being の支援に関与する必要性が示唆された。

審査は 2021 年 12 月 24 日に実施した。文化という簡単には変えられないもの、中でも、特に強い文化をもつ歌舞伎の世界に焦点化し、豊富なデータを基にした詳細な記述によって当事者たちが考える「健康」と、専門職が考える産業安全保健の考え方との接点を見いだした点には最も難しいケースの探求といえることから、高く評価された。ただし、分析的二元論に基づく分析を洗練する

こと、歌舞伎役者の産業安全保健における国や組織、個人の役割を整理すること、COVID-19 の影響とこれからについての記述を含め、論文の構成を見直すことが必要であると指摘された。

修正後の論文では、上記の点について適切に修正されていることを審査員で確認した。

本研究は、歌舞伎の歴史を、文献や映像資料から丁寧に振り返り、先人の功績である名跡を襲名し、家や芸を伝承するという歌舞伎俳優の「健康」言説における社会構造、「健康」言説の再生産に関わるエージェントを科学的に明らかにした初めての研究である。COVID-19 感染拡大のなか、インタビューによるデータ収集という当初の計画からの変更は余儀なくなったものの、豊富な資料から「健康」言説に関わる歌舞伎の歴史、文化について丁寧に分析したこと、そしてこの感染拡大による興行の中止や感染予防のための対策が、期せずして歌舞伎俳優と産業安全保健との関係を浮き彫りにし、両者をつなげる大きな契機となったことを確認したこと、さらに保健医療専門職に健康の多様性を理解した支援を行う必要があることを改めて認識させる点においても価値が高い。

以上により本論文は、本学学位規程第 5 条に定める博士(看護学)の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。